

後援会会長 ご挨拶

伊藤 英夫

昭和46年、グループかがわは、自閉症幼児のための通園施設、賀川学園としてスタートしました。その後、学齢期の個別・グループ指導のさくらの木、作業所のかがわ工房とワークスタジオかがわ、グループホーム、福祉共同作業所、生活実習所、児童発達支援センターきらりと、小金井市を中心に地域に密着しながら発展し、乳幼児期から成人期までトータルな支援を実践してきました。この半世紀の間、自閉症を中心とした発達障害の考え方や支援方法も、様々に変遷してきました。グループかがわでは、基本となる考え方や支援方法はそれほど変わっていませんが、幼児期の賀川学園から成人期になるまでかかわってみると、色々と分かってくることがあります。このように生涯発達の観点から経験的に得られた知見、また様々な研究から得られた最新の情報を基に、支援方法、きょうだい児を含む家族支援にも様々な工夫がされてきました。これは、他の施設にはない歴史と伝統と、新しい考え方への柔軟な姿勢に基づいた素晴らしい実践と言えます。

一後援会の大きな役割の一つは、グループかがわの職員が充実した支援を行うことができ、利用者や家族の皆さんが充実した生活をおくれるように、財政的なバックアップをすることと考えています。

近年、ふるさと納税という自治体への寄付が盛んになっています。同じ寄付でも、本当に支援の必要な人たちのためになる寄付は、返礼品こそありませんが、心が豊かになるという返礼効果はあります。その寄付は、だれにでも優しい共生社会の実現に一役買っていることになるからです。これまでご支援いただいている皆様には感謝いたすとともに、これを機にグループかがわへの財政的支援をお考えの皆様も、ぜひご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。